

# 旧石器ハテナ館だより

せんとうき

# 尖頭器



尖頭器とは、主に旧石器時代に使われた狩猟具です。

旧石器ハテナ館  
(史跡田名向原遺跡  
旧石器時代学習館)  
神奈川県相模原市中央区  
田名塩田 3-23-11  
042 777 6371  
平成 28 年 10 月 12 日  
【第 32 号】

## 古代にタイムスリップ！！

# 旧石器ハテナ館まつり

今年の旧石器ハテナ館まつりは、9月17日(土)に開催されました。台風や秋雨前線の影響で雨の日が続く中、開催できるか心配になりましたが、当日はすっかり晴れてお祭り日和となりました。

まつりの目玉で、毎年大人気の「石蒸し料理体験」は、今年もあっという間に定員に達しました。石蒸し料理は、朴葉に肉や野菜等の食材を包み、焼いた石の上に乗せ、そこに芭蕉の葉や土をかぶせて、30分ほど蒸します。参加者はしっかり蒸し上がっているかドキドキしながら朴葉を開け、大昔の人々の食生活を思いながら試食しました。



石蒸し料理体験

遺跡公園では「弓矢の射的体験」が行われ、参加者は的に狙いを定め、勢いよく矢を放っていました。途中で行われた「射的コンテスト」では、若き狩人が弓矢の腕前を競い合いました。また、今年は新たに「古代の魚釣り体験」コーナーが加わりました。紐の通った粘土製の魚や勾玉を大昔と同じ鹿角製の釣り針で釣り上げます。その他にもハテナ館と遺跡公園に関する「クイズラリー」や、ハテナ館側の会場では「火おこし体験」「縄文ペンダント作り」、公園内では「縄文服を着てみよう」のコーナーがあり、どこも大人気で、子供だけでなく大人も一緒に楽しんでいました。

「ハテナ館と地域をつなぐ会」の方々が焼きそばや焼き鳥、鮎の塩焼き等、様々な軽食を販売し、こちらも好評ですぐに完売となりました。

そして今年も相模原市公式マスコットキャラクターの「さがみん」が遊びに来てくれました。参加者はさがみんと楽しく触れ合い、一緒に写真を撮る人も大勢いました。

今年の旧石器ハテナ館まつりもボランティアや各団体、地域の方々のご協力のおかげで大成功となりました。また来年も楽しいお祭りにしたいです。



弓矢の射的体験



古代の魚釣り体験



火おこし体験

縄文ペンダント作り



さがみんと触れ合い



# 夜の生き物 観察会



今年で4回目の開催となり、夏のイベントの定番になった「夜の生き物観察会」は、7月16日(土)に行われました。夏休みに入る直前の3連休で、地域の夏祭りが開催される中、「生き物観察ツアー」には51名もの参加者が集まり、さがみはら水生動物調査会の守屋博文さんと一緒に田名向原遺跡公園内の生き物を探しました。また芝生広場では、灯りをつけて虫を集める灯火採集を行いました。

事前に守屋さんが仕掛けたトラップには、コクワガタやカブトムシのメスが入っていて、子供達を驚かせました。キマダラカメムシは神奈川県では数年前に見つかった珍しい種類ですが、公園内の木でたくさん見られました。灯火採集では最後にノコギリクワガタが現れ、子供達を喜ばせました。今日の体験は将来の生き物博士達にとって、かけがえのないものになったことでしょう。



灯火採集

守屋さんと生き物観察

## ハテナ館 夏のイベント



八瀬川で生き物採集

8月6日(土)には「八瀬川探検 川の生き物や自然を観察しよう」を実施しました。今年も受付開始後すぐに定員に達してしまい、「旧石器ハテナ館まつり」に負けない人気イベントとなりました。

こちら守屋博文さんを講師に招き、旧石器ハテナ館の近くを流れる八瀬川へ行き、川を上流へ向かって探検しました。川の中は足場が悪く、転ばないようにゆっくり歩きました。途中、水車があった場所や礫群等の地層がわかる場所があり、地層部分にはカワセミの巣を見つけることができました。

上流の開けた場所で八瀬川に棲む生き物採集を行い、魚や昆虫を観察しました。子供達は守屋さんと一緒に追い込み漁をして、アユやウグイ等の魚を捕まえました。

参加者にとって普段体験することができない、楽しい夏休みの思い出となったようです。

## 八瀬川探検



—川の生き物や自然を観察しよう—

## ～イベント情報～

毎月第3日曜日は定例体験教室の日！

- ・11月20日 埴輪作り
- ・12月18日 黒曜石で石器作り

講演会「縄文時代の柄鏡形(敷石)住居址」

期日：11月12日(土) 申込は不要です。

講師：山本暉久氏(昭和女子大学教授)

バスツアー「山梨の縄文文化に触れる旅」

期日：12月3日(土) 申込は11月1日(火)から。

行先：釈迦堂遺跡、山梨県立考古博物館、金生遺跡

**よろしくお願いします！**  
—新任学習指導員 挨拶—

池田 高明(いけだ たかあき)

「ふるさとを良くしようと思う子どもをつくらない限り、日本が良くなることはない…」民俗学者・宮本常一のことばに後押しされながら中・高の教員を長く勤めてきました。

先人の足跡や歴史のロマンを、わたしたちの“ふるさと”を語り合いましょう。